# 平成２９年度授業力向上研修を終えて

理　科（生物）　佐　藤　春　香

## Ⅰ　はじめに

採用３年目教員として、授業力向上研修講座に参加させていただいた。昨年までの２年間で高校生物の全範囲を扱い終え、多くのことを新たな課題として認識した。この課題について向き合うことのできる貴重な研修の機会であった。学んだことを実践していく決意を込めて、報告させていただく。

## Ⅱ　授業力向上研修講座について

１　自身の授業分析について

秋田県学校教育の指針 H29 年度の理科の重点を踏まえて授業を行うよう指示があった。理科の重点は①予想や仮説を基に展開する学習活動の充実②互いの考えの検討を通して考察を深めるための手立ての工夫である。高校では内容が高度になり、なかなか実際に実験を行うのは難しい。そこで、高校でできそうな学習課題の設定に挑戦した。また、通常の授業では振り返りに重点を置いているので、その点についても指導していただきたく①追体験でしか扱うことのできない単元の中で、予想する場面や仮説に気づく場面の設定②振り返る場面の設定の二点を視点とし、授業研修を行い、分析・協議してもらった。課題として、学習課題がオープンすぎたことが挙げられた。また、DNA の構造の特徴と遺伝情報の関連までが到達目標であったが、時間内に終わらせることができなかった。藤原指導主事からは、塩基対がA と T でなければいけない理由や、相補性の意味を複製や修復と合わせて考えさせることも時間配分を工夫してできればよかったとご助言いただいた。振り返りについては概ねプラスの評価があったので、今後も継続していきたい。

２　グループ別授業分析について

グループ別授業分析では特に「学習課題」と「単元計画」について強く重要性を再確認した。「学習課題」については、生徒の意欲や主体性を引き出すものの設定、そのための教材研究、そして明確なゴールの提示と生徒との共有を実践していく。動機づけは心を動かすような emotion（感情）に訴えるものが望ましい。そのためには、実生活から教科が近すぎず離れすぎず生徒の既知事項を刺激する題材を扱うことが有効だと考える。「単元計画」では、重点を置くところとそうでないところの区別化、中学校との研修で感じた実験不足補充などのため、藤原指導主事からご助言いただいたとおり、自分なりの単元計画を見直し、より良いものを作成したい。